

# 折れた竿

★滋賀県 湖西 安曇川上流  
☆葛川 木戸口周辺く貫井堰堤

「ミニミニでちょっとやってみよか？」ウインカーを左に切って川原に降りると既に餌釣師の車が数台とまっていた。

坊村上流域のこのあたりは水量も結構多く初期に入るには餌でないと感じるが、ダメもこの様子見て入って見る事にした。

しかし、耳元でゴゴ音を立てて容赦なく吹き荒れる突風に釣欲や釣気もそがれ止む無く退散、やはり少し早すぎた様だ。

ある年3月の最終土曜日・・・本来なら美山で硬くライズ捕りとなる所が、前の年の貫井堰堤のライズ捕りが忘れられず、寒波も無視して名神高速に乗ってしまった事がケチのつき始めたのだのかもしれない。

「餌過ぎにはライズ始まるやろ・・・」と安直な期待でリバーウォッチングをしながら時間を潰した。

ところが、餌を回ってポカポカ陽気になっても相変わらず風は止まずいつこうにライズはない。

この日この時、この場所でライズがなければ絶望的と立ちこんだ貫井堰堤は沈黙を続けた。

「あかん・・・これは外した・・・」

「もうなると、WETで引きずり出すか、ニントを転がすか・・・残された選択肢はそう多くはない。」

さんざん悩んだ挙句に「久しぶりにニンフやなあ・・・」とヘアーズイヤアを取り出し、マーカーをセットして盛期のお気に入りでもある中村発電所前から入り釣り始めた。

ところがこれが全くダメ・・・MSCに交換しても、マーカーは主人である私の苛立ちを無視するかの様に、冷たい流れに乗ってサーフィンを楽しんでる。

・・・(ホンマ・・・この野郎・・・愛嬌でもエエから、たまにはピクツと走れや！)・・・高架をくぐり「いもうお」さんの裏でピクツと来てバシッとあわせば、乗った・・・と思いきや非力満願のカフムツ君が上がってきた。

程なくお気に入りのお堀堤・・・見ると堰堤の上で餌釣りのおっさんが陣取っている。

「釣れますか？・・・と私なりに大声で叫ぶと、

「@▲?■\*/?!」・・・流れの音にかき消されて何を言っているのかわからない。

今日、先行者など本流ではあって無い様なものである。陣取り、釣り下がりがないまま多くはなっては、あまり拘っても仕方がない。

「ちょっと通りますよー!」・・・と念のため

に断りを入れると、

「@■\*/?!」・・・とチンプンカンプン・・・

堰堤の脇を通過して上手に上がり・・・「どうです？釣れますか？」と聞く。

「釣れるさかいに通らんといて!・・・ちゅうてんねん!・・・」と、なんとも陰険な応え・・・

「あつそ!・・・それはすんまへんあゝ」と立ち去ろうとする。

「ミニ、そんな道具で釣られへん・・・飛ばす所ないやろ!・・・あんたら場所荒らしすぎやでえ・・・釣れもせんに・・・」と私の背中に浴びせかけた。

確かに陣取ったところを通ったことは少々気分を悪くされても仕方が無い・・・しかし、「すまん」と言って立ち去ろうとしたにも係らず、去り際に釣り方を批判されてついついカッとなっていました。

「ほお・・・偉い講釈やのう?・・・おっけんフライやったことあるんかい?・・・振り向いてどう言つて、

「そんな道具触ったこともないわ・・・」

「やったこと無いのに何がわかんねん?エエ?・・・」と更に詰め寄るとおっけんは一気に怯んだ。

相当厳しい顔つきをしていたかも知れない・・・何分私の着ている服は全て3Lサイズ



でどう見てもSサイズのおっさんには威圧的に映ったんだろう。

慌てたおっさんは竿を落とし、拾い上げるところで足がもつれて踏んづけてしまった。

「ボキッ・」と鈍い音を立ててグラスロッドの餌竿が折れた。

おっさんは私と自線を合わさぬ様に、満杯の魚籠を水から上げると、折れた竿を適当に縮め、川の中に「ボチャン」と放り込み・・・

「ケチついたわ・・・ごぉぞー・・・」と魚籠からしたり落ちる水も気にせず、一目散に川から上がって行った。

ケチのつき様と気分を害したこと  
は私も当然おっさん以上である。この日は釣れなかった。

川で出会う年期の入った釣師の方々には、色々と教えてもらった事も多く非常に感謝しているが、時にこの様なタイプも居る事は確かである。

C&R区間を無視してキープする・・・無銭釣りが当たり前と豪語する・・・どこから見ても釣り上り陣取り先行者優先などもはや通用しない状況でア見狭く主張する・・・たまたまこんな奴らが毛鉤でなく効率の良い餌釣リを選んでいる為か、今度は餌釣そのものを敵対視するフライフィッシャーも現れる。紳士的な餌釣リ師も多々お見かけしているのです、その様な方々の印象までが悪くなり気の毒でならない。

フライフィッシャーでも最近はこの中をバシバシバシバ過ぎて後続者

のことも考えず、一応、声はかけるが、前に割って入る距離が短すぎる者が多い、餌や毛鉤やの釣り方では判断でけへん！

漸く冷静になって、川に入り、背中に吊るしたネットで放り込まれた竿をすくいあげ、この日の釣果「折れた竿」はリリースされずにキープされた。

しかし、私も大人気なかったと反省している。それ以降は釣り方で線引きしないこと、他人に釣り方を批判されても応じないこと・・・釣リ人の価値観は人それぞれであると考える様にした。但し、C&R区間で平然とキープするなどは、これは同じ釣リ人として許してはならない、逆にキープすることも前提とされた一般河川でC&Rを強要してもこれは価値観が違うので仕方がないことである。

このときの戒めもあつてか、この日の釣果「折れた竿」は未だに捨てる機会を逸して、私の車のトランクの隅で眠ったままである。

■安曇川上流(葛川)・木戸ロから下流の「案内」  
木戸ロ周辺は安曇川上流でもっともお気に入り  
の場所である。中村発電所前から「いもつお」  
さん裏・・・そして新道の高架と高架の間、この  
辺りは放流場所になっているのか、良いときに  
当たるとそこらじゅうでアタックがある。

特に木戸ロ上流の脇道中ほどにある駐車スぺ  
ースから降りたあたりはここだけで「つ抜け」  
を達成したことも何度かあるぐらい放流直後は  
濃密極まりない。(・・当然やるね・・)

逆に中村から下がって坊村、梅ノ木あたりは  
とてもドライで攻める気がしない。入ったとし  
ても川幅もある為、WETでドロPPERを着け  
て広く探る方が効率が良い。

江(伊) 賀谷は小さいイワナが釣れるが、一  
度頭上の木々にサルの大群を見てから入る気が  
しない。

坊村で合流する明王谷は残念ながら合流点か  
ら少ししか入った事が無く、そこでも小さなイ  
ワナが釣れたが、車で上流に詰めても降りるの  
を躊躇うぐらい気乗りがしない谷である。

本当はここが一番核心部かも知れないが・・・

實井堰堤は初期のライズ捕りが有望・・・しか  
し、何度も書くが、この本流筋は隔週放流に  
大きく左右され、パチンコのあたり台を品定め  
するが如く、時期と場所を読んで入る事が肝  
心・・・日頃の行いが悪ければ、ハズレ台を引  
くどころか私と同じ様にア見の狭い釣り師と遭  
遇して気を悪くする災難も待ち構えている。

しかし、アクセスが楽で、気がつくとき当たり  
前の様にロッドを振ってる川なんやなあ・・・  
これが・・・

2006年 7月

